

講義名	旅行事業経営論			授業形態	
担当教員	山川 拓也	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限		
	単位数 2	履修開始年次 3年生	ナンバリング・コード TOR361		

主題と概要

観光事業は世界的にみても成長を続けてきた産業の一つである。コロナ禍によって一時は停滞したものの、現在は再び成長曲線に戻っている。旅行業（旅行会社）は、旅行者の移動・滞在・交流を下支える重要な役割を買っており、観光産業の中で中核的な位置づけとなっている。一方、近年では、旅行者が旅行手配を簡単に見えるようになっており、外的環境や社会構造の変化にあわせた変革の必要性が高まっている。

本科目は、旅行業の成り立ちから始まり、ビジネスとしての基本構造と特性、市場や事業を取り巻く世界的变化、ビジネスモデルの拡張と変革等に關し、主に産業論や経営学の観点から幅広く解説していく。それを通して、旅行事業経営への理解を深めていく。

到達目標

我が国における現代の旅行事業および旅行ビジネスの産業的な構造を把握・理解できるようになる。

現在の旅行事業経営に関する気づきから、問題点・機会点を客観的に分析し、将来の旅行事業の在り方や方向性について考え、論理的に説明できるようになる。

提出課題

・毎回の授業終了後、期限内に提出を求める「リアクション・ペーパー」（Campus-Xsで実施予定）

・毎回の授業終了後、期限内に提出を求める「理解度確認（小テスト）」（Campus-Xsで実施予定）

・小論文／論述レポート（詳細については授業中に説明する）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

理解度確認（小テスト）／リアクション・ペーパーの記載内容で解説や補足等を加える必要があると認めたものは、適宜それを共有する。

評価の基準

下記による総合評価とする。

提出後に提出を求める「リアクション・ペーパー」「理解度確認（小テスト）」への取り組み・提出状況：15%

小論文／レポート：35%

期末試験（対面方式にて実施予定）：50%

*毎回の出席確認は厳格に実施する。

*「の提出がない場合は、得点は0（ゼロ）点となり、成績評価に影響を及ぼす。

■提出：得点が0（ゼロ）点となる場合は、評議会を受けることとする（原則E）

*提出・早退・遅刻・器具持込を除く場合は、評議会を受けることとする（原則E）

*スマートフォン等の電子機器類の無許可かつ私的な使用、私語や睡眠の継続、教員の指示や指導に従わない等は態度不良・授業妨害と判断し、評価に重大影響を及ぼす。

*「リアクション・ペーパー」の記述内容が優れる場合、一定基準のもとで加点する。

*「論述レポートに対する評価指標の基準は、本シラバスに添付の「コモンブルック」に基づく。

履修にあたっての注意・助言他

専門内容を多く含むものとなり、旅行業への就業希望者ならびに旅行事業に関心の高い人でない限り、安易な気持ちでの履修は苦しむことになる。その点を十分に考慮・理解した上で履修を検討すること。

教科書

・使用しない。

参考図書

・旅行産業論 改訂版.	立教大学観光学部旅行産業研究会 (編集)	日本交通公社	2200	9784866313382
・改訂版 変化する旅行ビジネス：個性化時代の観光にならハブ産業.	小林弘二、廣岡裕一	文理閣	2750	9784892598913
・観光ビジネスの新展開：未来を切り拓く旅行会社.	福本賢太、田中祥司	晃洋書房	2970	9784771037939

その他

プリント資料：毎回の授業では講義レジュメを配布し、パワーポイントを使用して授業を実施する。

授業計画

ガイドライン（科目概要・授業方法・成績評価等の説明）

旅の質的変化と旅行業創生／近代的旅行業の始まり

旅行会社の現況と業態

旅行業の自立的産業への過程

旅行商品と旅行業経営の特性

旅行業法の概略／旅行契約の様態

旅行商品のバリューチェーン（価値連鎖の仕組み）

流通チャネルのマネジメント

旅行・観光商品の造成マネジメント

<展開事例研究> パッケージツアーや販売における顧客参加型マーケティングの実践

<展開事例研究> オンライン旅行会社（OTA）による旅行業のイノベーション

<展開事例研究> 日系旅行企業の海外進出にみる旅行業の国際経営

<展開事例研究> BTM（ビジネス・トラベル・マネジメント）による業務渡航・出張旅行の変化

<展開事例研究> ソリューションビジネスの構築・推進に向けた旅行会社の変化

<展開事例研究> ソリューションビジネスの構築・推進に向けた旅行会社の変化

授業形態（アクティブラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション・ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A.L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

（予習：120分／回）

・旅行会社や旅行事業に関する記事・文献等を収集して整理し、授業に向けた予習に努める。

（復習：120分／回）

・授業の内容（特に理論の説明）を整理し、周辺事例と照らし合わせるなどして理解に努める。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目での目標に到達することには、観光ビジネスを理解する上での必要となる旅行事業に関する知識を修得し（目標）、旅行事業に留まらない全体的な観光マーケティングや観光マネジメント等に接続して考えられるようになります（目標）ことであり、本学ならびに学部・学科が定めるDP（卒業認定・学位授与の方針）と関連する。

・旅行業は観光産業における代表的な流通機構であり、そこでの事業ならびに経営の構造を理解することは学部共通DPに貢献する。

・到達目標 を達成することにより、学科共通DPに貢献できる。

具体的には、到達目標 は「観光事業の仕組みや経営構造を把握、理解する思考力」の涵養に貢献し、到達目標 は「課題解決や新たな価値を自ら作り出す想像力／提案力」の涵養に貢献する。

・主に到達目標 を達成することは、コースDPにある「旅行業、交通運輸業あるいは自治体や地域の観光団体での就業において自ら考える力を発揮し、観光地づくりや観光ビジネスに係わる新たな取り組みへの提案を行うこと」に貢献する。

・主に到達目標 を達成することは、コースDPにある「旅行業、交通運輸業あるいは自治体や地域の観光団体での就業現場において自ら考える力を発揮し、観光地づくりや観光ビジネスに係わる新たな取り組みへの提案を行うこと」に貢献する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

・毎授業後に実施する「理解度確認（小テスト）」や「リアクション・ペーパー」等の課題への取り組みにおいて、LMS（Campus-Xs）を活用する。

・必要に応じて授業中でもresponを使用し、意見収集等を行うことがある。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
旅行業および旅行サービス手配業の実務経験（欧州を中心とする海外団体旅行の企画・営業、添乗、海外駐在、市場戦略策定）ならびに「総合旅行業務取扱理業者」（国家資格）の知識・知見を活用し、本科目の目標に学生が到達できるように努める。

備考

・科目的進捗状況等によって授業の内容や順番を変更する場合があり、その際には事前に告知する。